

銃剣道の本旨

- 第1 銃剣道は、わが国の伝統的な武術である槍術の「突き技」を基調として、明治初期に創成され発展した武道である。
- 第2 銃剣道は、武士道の美風である、「誠実」「礼節」「勇気」「質実剛健」及び「克己心」等を徳目として錬磨し、社会に有為な人間の育成を目的とするものである。
- 第3 銃剣道は、「突く」「抜く」「打つ」「払う」「かわす」「押す」及び「足さばき」等の身体活動を通して、健康で豊かな社会生活を営むための、国民の健康・体力づくりに寄与するものである。
- 第4 銃剣道は、木銃を用いて相手の喉・胴等への「突き技」で競い合う競技であり、攻勢的に果敢なところに特色がある。また、技の構成は単純で習得容易であるが、真髓を極めるには奥深いものがある。
- 第5 銃剣道は、稽古と試合を通じて、「知」「情」「意」のバランスのとれた心身の発達を図り、社会への適応力を育成し、心肺機能・スピード・反応力及び持久力を高めることができる。